

2026年2月27日(金)午前9:00からCRTスタジオで収録

## どのような本を読んだらよいか、本の選び方を考える（「読書教育」）

開倫塾

塾長 林明夫

Q1：読書をするとき、どのように読む本を選んだらよいのですか。本の読み方を教えてください。

- A：(1) どのような本を選ぶかは、頭の中に何を入れるかを考えるのと同じで、とても大切です。できれば、読んで栄養になる本、為になる本をお読みになることを、おすすめします。これは、食事をするとき、何を食べたらよいか、おいしくて、栄養のバランスのいい材料を選び、さらには、料理の仕方を考えるのと、全く同じです。
- (2) 一番よいのは、自分で持っている本や、家に置いてある本を、家の人の許可を得てから、読むことです。自分が持っている本で、まだ最後まで読んでいない本や、もう一度読みたい本があったら、是非、じっくり読んでみましょう。家にある本で、読みたい本があれば、その本を持っている人の許可を得てから、手に取って読んでみましょう。
- (3) 次におすすめは、今通っている学校の「学校図書館」にある本を読むことです。そのためには、「学校図書館」のどこにどのような本があるのか十分に知ることです。そのために大事なことは、毎日1回は、「学校図書館」に出掛け、図書館の中をくまなく歩きまわり、どこにどんな本があるかを、知ることです。
- (4) 「公共図書館」や、街の「本屋さん・書店」、「古本屋さん・古書店」にも、どんどん出掛けて、歩き回り、「公共図書館」や、「本屋さん」のどこにどのような本が置いてあるか、大体のことを知ることをおすすめします。

## ＜ご参考＞

- (1) 高校卒業後に大学に進学なさる方は、大学の学問的中心である「大学図書館」を使いこなすこと。「最大活用」し、大学での勉強に役立てることが求められます。「大学図書館」こそ、大学生は、毎日出かけ、どこに何があるかを知り尽くし、「最大活用」なさるべきです。
- (2) 私が客員教授をしている宇都宮大学と作新学院大学の「大学図書館」は、その大学生でなくても利用が可能です。是非、HPでお調べの上、ご活用ください。
- (3) 買い物上手な人は、コンビニやスーパー、100円ショップや、ホームセンターなどに行き、自由自在に歩き回り、各々のお店のどこに何が置いてあるかをよく知っています。読むべき本の探し方も、「買い物」と同じです。まずは、どこにどんな本があるかを知ることが第一です。

Q2：学校の国語の教科書でも素晴らしい作品が紹介されていますね。

- A：(1) そのとおりです。小学校、中学校、高校の「国語の教科書」は、読んだ方がよい作品や作家でいっぱいです。国語の教科書や、国語の授業で、お気に入りの作品、お気に入りの作家に出会ったら、是非、大切に大切にさせていただき、その作品を、じっくりと何回もお読みください。
- (2) 国語の教科書に出ているのが、作品の一部である場合には、その作品を、全部、最後まで読むことをおすすめします。
- (3) 例えば、教科書で、夏目漱石の「坊ちゃん」を学び、「坊ちゃん」という作品が気に入ったら、家に「坊ちゃん」があれば、家の人の許可をもらい、「坊ちゃん」を最後まで読む。図書館で「坊ちゃん」を借りて読む。「本屋さん」「古本屋さん」で坊ちゃんを買い、最後まで読むことを、おすすめします。

Q 3 : 好きな作家が出てきたら、どうすればいいのですか。

A : (1) 例えば、「坊ちゃん」を読み、夏目漱石が好きになったら、夏目漱石の代表作である、「三四郎」「それから」「吾輩は猫である」などを、ゆっくりゆっくり読んでいく。  
(2) 何冊か代表作を読み、ますます興味が出てきたら、「こころ」「坑夫」「門」「草枕」「虞美人草」「道草」「行人」「彼岸過ぎまで」「明暗」など、長編の名作をどんどん読んでいく。  
(3) 「文鳥」「夢十夜」「二百十日」「野分」など短編集、「私の個人主義」「現代日本の開化」など講演会速記録、「思い出すこと」「硝子戸の中」などエッセイ、「漱石日記」「漱石・子規往復書簡集」「漱石文明論集」なども、漱石ファンにとっては、興味が尽きません。これらはすべて、岩波文庫で読めます。何か月かかけ、一冊読み、読み終えたら、さらに、一冊読む。気に入った作品は、何回も、最後まで読む。5 ~ 10 年かければ、かなり読めますので、焦ることはありません。

Q 4 : 夏目漱石は、俳人の正岡子規と仲が良かったのですね。

A : (1) 東京大学文学部の同級生で相当仲が良かったようです。漱石は、子規から俳句を学び、多くの作品を残しています。また、漱石が松山中学や熊本第五高等学校で教えたり、イギリス留学中に、手紙のやり取りをしたものが「漱石・子規往復書簡集」として、出版されています。漱石が、イギリス留学を終え、東京大学文学部の先生をしながら、最初の作品「吾輩は猫である」を掲載したのは、子規とゆかりの深い、高浜虚子が編集した「ホトトギス」でした。  
(2) 漱石、子規、虚子を読み続けると、俳句の世界に親しむこともでき、読書の幅も、グーンと広がります。漱石の漢詩も素晴らしいものですので、「漢文・漢詩」に親しむことができます。  
(3) 漱石は、日本の国費留学生として「18 世紀のイギリス文学研究」のため、英国に 2 年間留学。帰国後、東京大学文学部で指導。イギリスでは、18 世紀イギリス文学の代表作を学んだだけではなく、16、17 世紀のイギリス文学、イギリスの歴史や文化を学びました。一番熱心に学んだのは、シェイクスピアでした。シェイクスピア研究の第一人者である先生からずっと個人指導を受けていました。イギリスの絵画や演劇も熱心に鑑賞。その成果を、東京大学文学部で講義し、文学作品としては、「吾輩は猫である」として、まとめ、世に問いました。「漱石文学評論」「漱石文芸論集」(岩波文庫) などでも読むことができます。

Q 5 : 熊本の第五高等学校では、ラフカディオ・ハーンも教えていましたよね。

A : (1) その通りです。ラフカディオ・ハーンは、松江中学校で英語教師をした後、熊本の第五高等学校で教え、神戸で過ごしたのち、東京帝国大学文学部で教えました(最後は早稲田大学)。  
(2) 夏目漱石は、東京帝国大学文学部を卒業後、四国の松山中学校で教え、ラフカディオ・ハーン退任後、熊本の第五高等学校に赴任。イギリス 2 年間の留学後、ラフカディオ・ハーンの後任として、東京帝国大学文学部に赴任。  
(3) これは何を意味するか。明治時代の、島根の松江中学校、四国の松山中学校、熊本の第五高等学校の生徒は、後に東京帝国大学文学部で教える最高レベルの先生から、英語の指導を受けていたことがわかります。

Q 6 : 最後に一言どうぞ。

A : お気に入りの本や作家に出会ったら、代表作をまず読み、気に入ったら、他の作品も、全集などを用いて読む。作者の興味関心が自分の興味関心と重なったら、そちらの分野(ジャンル)にも、挑戦する。夏目漱石の場合を例にご説明させていただきました。参考例の一つとして、「ご活用」ください。